

営農技術情報

～トマト薬害防止～

平成29年 6月22日発行

日高農業改良普及センター日高西部支所

TEL01457-2-2055

農薬や葉面散布資材等の薬害に注意!

トマトハウスにおいて、農薬(殺虫剤、殺菌剤、展着剤)と葉面散布剤(窒素・リン酸・加里、石灰、苦土等を含む資材)を4～6種類混用し散布することでトマトの果実や茎葉に薬害斑点を生じている事例が見受けられます。

薬害斑点の症状として、果実表面に細かいキズあとが生じたり、葉の表面に「きなこ」の粉をまぶしたような褐変症状が生じたりしています。

果実にキズがつき品質が低下したり茎葉が褐変する事で、トマトの収量減少、生育遅延等が予想されます。

農薬同士の混用や葉面散布剤同士の混用でも薬害を生じることがあるので、農薬と葉面散布剤の特性をしっかりと理解した上で、安全・適正に使用しましょう。

<農薬散布時の注意点>

- (1) 農薬と葉面散布剤はできるだけ混用しない。
- (2) 高温時の散布や日差しの強い時の散布は控える。
- (3) 農薬散布や葉面散布後は、薬液が速やかに乾くようにハウス内の換気を図る。
- (4) 葉面散布の際、リン酸分と石灰分の入ったものを混用して散布すると、化学反応を起こして濃縮された成分が薬害を引き起こす可能性があるので使用を避ける。
- (5) 浸透性の高い農薬(アミスター20フロアブル等)は、高温・多湿時での散布や他剤との混用を避け、単剤で使用する。
- (6) 農薬を混用する際には、混用適否表で必ず確認する。
平成29年農作物病害虫防除ガイド除草剤使用ガイドのP75を参照する。
- (7) 農薬・除草剤使用の際には登録内容を必ず確認し、希釈倍率や使用回数等の使用基準を遵守する。